

## ナラ林等でのカイガラムシ被害の判定

－被害木の特徴とカイガラムシの形態－

### 1 はじめに

平成20年8月、本県内陸部の矢巾町や紫波町、花巻市でナラフサカイガラムシによるナラ類の衰弱被害が初めて確認されました。

また、近年、山形県や福島県等ではカツラマルカイガラムシによるナラ等の衰弱枯死被害が顕在化し、森林保護上の大きな問題となっています。

ここでは、野外で被害判定する場合の参考として、被害木の特徴と、上記2種のカイガラムシの形態の違いについて解説します。

### 2 被害の特徴

両種とも8月中旬頃から葉が茶色に萎(しお)れる「葉枯れ」という外観上の異変が見られます。

(写真1)

葉枯れは部分的なものから木全体に及ぶものまで、その程度は様々です。

また、部分的な葉枯れは、夏から秋にかけて次第に枝や樹木全体に広がり、被害が顕在化していきます。



写真1 「葉枯れ」の状況

また、被害が複数年に渡ると、写真2のように、最初に寄生された枝が枯死し、下部の太枝や幹などから葉や枝が発生する特徴的な樹形となります。(「胴吹き」とも呼ばれます)



写真2 「胴吹き」の状況

(担当 研究部 主任専門研究員 小澤 洋一)

### 3 形態的特徴

枯死枝を採取し、ルーペ等によって付着しているカイガラムシを観察します。

#### (1)ナラフサカイガラムシ (写真3)

殻(介殻といいます)の大きさは1mm以下ではほぼ円形。寄生部分は浅く凹みます。

殻の中の成虫が透けて橙色から茶色に見える。コナラとミズナラに寄生します。



写真3 ナラフサカイガラムシ

#### (2)カツラマルカイガラムシ (写真4)

介殻の大きさは2mm以下で円形から楕円形で褐色から黒。中心に幼齢時代の殻が白い突起状になって残ります。

クリ、コナラの他多種の植物に寄生します。



写真4 カツラマルカイガラムシ

### 4 おわりに

今後、対策を検討していくためには、初めに被害状況(被害分布、被害程度等)を把握することが重要となります。

そのためには、森林・林業関係者を中心に、地域の雑木林を注意深く観察していくことが必要です。

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
岩手県林業技術センター  
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017>

TEL 019-697-1536  
FAX 019-697-1410